©河北新報社 2009

NIE特集
Newspaper In Education

鳴瀬小

学校名　加美町立鳴瀬小学校
所在地　加美町四日市場舟橋250
電　話　0229（63）2055
校　長　坂元　玲子
児　童　72人

うきうきキャンバス

サツマイモほり　2年・本田　傑

上手に書けるかな　4年・佐々木遥歩

ジャックと豆の木 ～がんばれ、ジャック～　3年・相沢りな

てつぼうだいすき　1年・千坂美宇

野原の青空グループ　5年・工藤　梢

郷土出身の画家 河合敏雄の生涯探る!

知り隊

墨絵 生きているよう

美術研究 欧米で活躍

皆さんは河合敏雄という画家を知っていますか。わたしたちの学校にある二枚の洋画の作者です。気になり調べてみると、鳴瀬小の出身であることや欧米で活躍し、数々の名作を残していることなどが分かってきました。わたしたちは、河合画伯がどんな子どもだったのか、どんな画家だったのか、もっとくわしく知りたいと思い、生家である村山斌夫さん(六六)のお宅に伺い、その生涯を教えていただきました。

河合画伯について説明してくれた村山さん(中央)

鳴瀬小に飾ってある河合画伯の洋画「少女」

河合画伯は一九〇一年に、当時の鳴瀬村に生まれ、今の小学校と中学校にあたる鳴瀬小高等科を卒業した、わたしたちの大先輩です。村山さんは「少年時代は、あらゆる自然現象に興味を抱き、何でも実際に手にしてみるほど、好奇心の強い子どもだったようですよ。だから、こんなにいろんな絵を上手に描くことができたのではないかな」と、アルバムや何冊もの作品集を開きながら話してくださいました。

その後、師範学校（現在の宮城教育大学）を出て栗原や仙台などで美術の教師になりますが、絵の道を目指し研究所に入ります。その成果が見事に現れ、帝国美術院展や二科展に出品した絵が次々に入選します。

さらに、藤島武二や熊谷守一（油絵）、小林源太郎（墨絵）といった高名な画家に師事して腕を磨き、墨絵画家として自分の作風を築いていきます。

中新田地区にある「墨雪墨絵美術館」には、河合画伯の作品がたくさん収められていますが、確かに油絵と墨絵が混じったような絵が多かったです。鳥などの生き物を描いた絵が多く、どれもリアルで、まるで本当に生きて動くように感じられるものばかりでした。

墨絵を広め、さらに美術を研究するため渡米した河合画伯は、カリフォルニア大学や東ロサンゼルス大学で教授になりました。

絵画の技術が進んでいたフランスをはじめとするヨーロッパの国々もたくさん訪れ絵画を描き、一九八九年に亡くなりました。

◇　◇

学校の絵に「渡仏記念」とある理由がこれで分かりました。故郷を描いた「鳴瀬川河畔」もきれいな絵で心に残りました。鳴瀬の大先輩の歩みを学んだ貴重な時間でした。

文・千葉聡、遠藤智晶、斎田千尋、森田純一（6年）

言い隊

■ 介護担い手増やそう ■

今の日本は「少子高齢社会」と言われます。お年寄りが多くなってくるのにともない、介護が必要な人もどんどん増えてきています。

そうなると、介護をする側の人も多くいなければなりません。しかし、若い人たちが減っているので、将来、介護を行う人たちがいなくなってしまうのではないかという不安がわたしにはあります。

お年寄りが安心して暮らせるように、わたしは、福祉施設とそこで介護を行う若い人たちを増やすことが必要だと思います。将来は、ますますお年寄りを大切にし、みんなで助けてあげられる社会になっているといいなと思います。

（6年・斎田千尋）

■ 未成年はたばこだめ ■

自動販売機でたばこを買うにはタスポが必要になりました。未成年に吸わせないための対策です。肺を悪くし、がんの原因とも考えられているたばこを若い人は吸わないでほしいと思います。

ポイ捨ても問題です。夏の砂浜で踏んでしまい火傷をした友達が僕にはいます。山火事を起こすこともあります。

環境破壊につながるそういう行為は、絶対にやめてほしいと思います。たばこを吸うのであれば、ルールとマナーを守ることが必要です。未成年の人たちは吸わないこと。携帯用の灰皿を持つなど、よく考えてほしいと思います。

（6年・遠藤智晶）

教え隊　校木の大ヤナギ

青空似合うシンボル

毎日、わたしたちのことを見守ってくれている大ヤナギ

旧鳴瀬小は、今の中新田交流センターの場所にありました。そのころ、お勤めされていた佐藤勝夫さん(66)に、当時の様子をお聞きしました。

佐藤さんがお勤めしていた1980年代には、鳴瀬中がすぐ隣にあり、鳴瀬小の音楽室でも中学生が勉強していました。今はもうありませんが、伊達家の由緒ある倉庫も校舎の間に残っていました。

校木は立派な「大ヤナギ」です。今の校舎に引っ越してくる時に元の木を挿し木して植え直したそうです。先輩たちの心を受け継いだ学校のシンボルは、真っ青な空がとてもよく似合う自慢の木です。

文・森田純一（6年）

編集後記

学校に飾ってある二枚の絵。それを調べることから今回の新聞作りがスタートしました。自分たちの先輩に、こんなにも素晴らしい洋画や墨絵をたくさん描いた画家がいたことを初めて知り、とても驚きました。

実際に河合敏雄の著書を参考に墨絵に挑戦したことも貴重な体験になりました。墨の色の濃さを変えて描いた竹の絵がうまくできたので、良かったです。

新聞作りを通し、調べ、見学し、体験するという活動の広がりが楽しかったです。自分で目指した道をまっすぐに進んだ河合敏雄もどんどん夢が広がっていったのではないでしょうか。

卒業を前に、地域を知るとてもよい思い出にもなりました。

〈編集委員〉千葉聡、遠藤智晶、斎田千尋、森田純一（6年）
題字デザイン　千葉聡（6年）
〈担当教諭〉森谷純